

2022年4月1日

住友生命保険相互会社

## 2022年度 新入職員向け社長あいさつ（抜粋）

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、本日332名（総合キャリア職員52名、ビジネスキャリア職員30名、総合営業職員250名）の新入職員を迎えました。以下に社長の挨拶の要旨を紹介いたします。

### ■住友生命の歴史とDNA

今日まで住友生命が発展してきた原動力の根幹は、経営の要旨にある「共存共栄相互扶助の理念に基づき、社会公共の福祉に貢献する」という不変の理念が、DNAとして脈々と受け継がれてきたことだと考えている。

昨今、SDGsをはじめ、企業の社会に対する責任は一層高まっているが、住友生命はその長い歴史の中で、「社会公共の福祉に貢献する」というパーパスのもと、本業を通じて社会的課題の解決に継続して取り組んできた。「信用と確実」を旨とする住友の伝統精神を継承し、「進取不屈の精神」で挑戦を繰り返してきたからこそ、今日の住友生命があると思う。

### ■新しい歴史の扉を開く

私たちは、この精神を受け継ぎ、「一人ひとりのウェルビーイングに貢献する」という、住友生命の新しい歴史を築いていこうとしている。この「ウェルビーイング」という概念は、単に「身体的健康」にとどまらず、「精神的」、「社会的」な面においても健康であることを意味している。ウェルビーイングへの貢献の中核となるのが住友生命「Vitality」であり、このVitalityを通じて、「ウェルビーイングの会社」という独自のブランド構築を目指していきたい。その実現のためには、お客さま、社会の視点で「よりよく生きる」とは何かを考え、企業イメージとして確立するまで取組みを継続する「想い（WILL）」が大切であり、自律的に研鑽に励み、働く充実感を高め、自身のウェルビーイングの実現を推進するなど、職員一人ひとりの成長が不可欠である。

### ■心掛けてほしいこと

こうした観点から、住友生命は、「ウェルビーイングの会社」の実現を目指して、「人財共育」に取り組んでいく。理想の「共育」とは、上から下へ一方的に行うものではなく、職員全員がお互いの繋がりの中で磨き合い、共に育っていくことだと思う。

「共育」を通じて、「ウェルビーイングの会社」という、住友生命の未来に向けた「あるべき姿（TO BE）」を、全員が「想い（WILL）」をもち、粘り強く実行し続け、「できる（CAN）」までやり続ける。この「TO BE」「WILL」「CAN」の3つ輪をそれぞれ大きくし、その輪の交わる部分が住友生命の価値となり、ステークホルダーの「未来をさらに強くする」ことに繋がっていく。

皆さんが仕事に取り組む時には、住友生命の原点や今日感じている「WILL」を大切にし、あるべき姿「TO BE」の実現に向けて「CAN」を増やし、仲間と共に自らを磨くことで、自身の価値をさらに高めていってほしい。